

目 次 (例 示)

1. 診断対象建物の概要

- (1) 名称、所在地（用途、案内図、配置図）
- (2) 構造、規模等（構造形式、設計者、施工者、竣工年）
- (3) 設計図書の有無
- (4) 改修歴、被災歴
- (5) その他必要な事項

2. 現地調査結果

- (1) 調査方針（調査項目と方法）
- (2) 調査結果と所見（診断方針へ反映した事項、仮定等）
- (3) 建物図面（平面、立面、伏せ図、軸組図、断面リスト）

3. 診断の方針

- (1) 準拠基規準（適用した基準）
- (2) 診断プログラム（名称、バージョン、評価番号）
- (3) 診断実施者
- (4) 診断次数（診断次数、耐震判定指標値）
- (5) 診断時のモデル化（部材のモデル化、ゾーニングの方法）
- (6) 診断における仮定（建物重量、材料強度、仕上表、調査結果からの引用事項）

4. 診断結果

- (1) 形状指標
- (2) 経年指標
- (3) 診断結果表
- (4) C-F 関係図
- (5) 破壊モード図

- (6) 第2種構造要素の検討結果
- (7) 下階壁抜け柱の検討
- (8) その他（塔屋、突出部材等の検討結果）
- (9) 診断結果の所見

5. 補強後の診断結果（補強が含まれる場合）

- (1) 補強設計の方針
- (2) 補強部材一覧と配置図（伏図、軸組図）
- (3) 形状指標
- (4) 経年指標
- (5) 診断結果表
- (6) C-F 関係図
- (7) 破壊モード図
- (8) 補強部材の個別検討結果等
- (9) 診断結果の所見
- (10) 補強部材の図面（仕様書、詳細図等）

6. 関連資料

- (1) 調査結果報告書
- (2) 写真
- (3) 診断報告書抜粋、評定書（過去に診断評定を受けた場合）

7. 議事録

注：上記項目中、該当しない部分は省略して下さい（耐震診断あるいは補強設計のみの場合等）。

また、上記目次は一例なので、資料がそろっていれば順不同でもかまいませんし、必要に応じて項目の追加等を行って下さい。